

[プロジェクト名]	[分野]
平沢3号墳発掘調査～夫の遺志を受け継いだ、未来へ託す保存プロジェクト～	教育・研究 課外活動 地域交流
[代表者]	
人文学部・人文学科・3年 岡 沙織	
[参加者]	
岡 沙織（人文学部・人文学科・3年） 石川 侑子（人文学部・人文学科・3年） 植田 舞（人文学部・人文学科・4年） 加増利 梓（人文学部・人文学科・4年） 栗原 敦子（人文学部・人文学科・4年） 佐藤 佑香（人文学部・人文学科・4年） 緑川 陽介（人文学部・人文学科・4年） 小沼 幸司（人文学部・人文コミュニケーション学科・2年） 成瀬 芳美（人文学部・人文コミュニケーション学科・2年） 枝野 孝彦（人文学部・人文コミュニケーション学科・2年） 小森 牧人（京都教育大学教育学部・2年）	
[連携先]	
つくば市教育委員会生涯学習課、NPO 法人平沢歴史文化財フォーラム	
[プロジェクトの実施計画概要]	
<p>[内容]…平沢3号墳（つくば市平沢字裏山）の発掘調査と現地説明会 期間：8月26日（日）～9月9日（日） 目的：平沢3号墳の修復工事に先立って発掘調査を行い、古墳の状況が変わる部分の記録を残すとともに、その成果を地域に還元することで活性化を図る。 古墳の概要：平沢3号墳は、古墳時代の径約17m・高さ約6.5mの円墳で、石室は後室・前室・羨道からなる複式構造の横穴式石室である。なお、本古墳は昭和57年に筑波大学の学生が有志で測量調査を行っている。</p> <p>[経緯]…平成15年土地所有者から平沢3号墳石室の側壁が倒れているとの通報がある。前室の側壁の石1枚が傾き、裏込めの土が石室内に流入している状況を確認する。前土地所有者は生前より所有する平沢3号墳を大切にしており、現土地所有者である夫人はその遺志を受け継ぎ、今後も保存し、広く公開するために元に戻せないか、とつくば市に相談する。しかし、民間調査機関による調査では土地所有者の費用負担が高額になるため、つくば市から平成19年5月茨城大学考古学研究室あてに実習による発掘調査が可能であるか問い合わせがあった。その際、目的を達成するには実習期間を越える実地作業が必要であるため期間終了後についても学生の協力を得たいという旨の要請が教員より示された。そのため保存を前提とした調査について積極的に関わりたいと考え、当プロジェクトを計画するに至った。</p> <p>[計画]…修復工事に際して古墳の状況が変わる部分の記録を残すために行う。8月26日（日）～9月2日（日）までは実習授業の一環として発掘調査を実施するが、以降は授業外の活動として、地域の人々に向けた説明会を開催するために精力的な調査を行う。記録保存の対象は①天井石までの墳丘②前室床面③羨道床面④石室の修復前現況、の4点であり、これらを図として残す。 調査結果を現地説明会で公開する。現地説明会は9月8日（土）に実施する。説明会開催にあたりポスター作成、市報などに広報することで地域の人々に呼びかける。見学者は100人の動員を見込む。説明会運営はNPO（特定非営利活動法人平沢歴史文化財フォーラム）と協力し、見学者の誘導・交通整理などを行う。茨城大学考古学研究室田中裕先生による古墳の概要と調査結果の説明を施設で行い、その後、発掘現場を見学してもらう。</p>	

[期待される成果]…発掘調査が保存・公開のための重要な足がかりとなる。公開を通して、地域の人々が遺跡内部の詳細を実際に見ることで、歴史を身近に感じてもらい、遺跡を保存することの価値を考える契機となる。NPOとの連携を通して大学と地域の交流が深まる。

[プロジェクトの成果報告]

今回のプロジェクトは、土地所有者による古墳の修復を契機として、地域に眠る文化財の価値をさらに地域住民の方に知ってもらい、今後の文化財保存・活用につなげる活動に、私たちも参画しようとするものである。この目的を果たすため、文化財を最も良好な状態で体感することのできる発掘調査を実施し、地域住民の方に公開することを試みた。

発掘・公開の対象としたのは、筑波山の南麓、茨城県つくば市平沢所在の平沢3号墳である。

実施に当たっては、人文学部田中裕先生の指導のもと、まず考古学実習によって7日間の発掘を行い、その後、本プロジェクトを活用し、現地の精査・記録作業と公開イベント「現地説明会」の開催に向けて8日間の作業を行った。発掘及び現地説明会については、当初予定していなかったつくば市教育委員会との連携が実現し、また現地説明会の駐車場確保に関して土地勘のあるNPO法人平沢歴史文化財フォーラムの助言をいただくことができた。

発掘調査の成果は、9月7日付け毎日新聞・茨城新聞・常陽新聞等で報道されたように、律令国家直前の地域の実相を知るうえで重要な資料であると評価され、地元住民の方にも地域への誇りと関心を持ってもらうことができた。

現地説明会は9月8日に実施した。実施に当たり、ポスターと道案内板を計約100枚作成し、交渉のうえ市内要所に掲示するとともに、周辺市町村教育委員会等25か所に案内書を郵送するなど広報活動を行った。また、市報や、当日付毎日新聞に案内記事を掲載していただいた。前日の台風直撃被害については、古墳発掘現場の順路整備を念入りに行い、安全の確保に努めた。説明会当日は、学生の手作りによるパンフレットを200枚作成し配布した。また、田中先生によるミニ講演会を開催し、現地では私たち学生が説明を行った。その結果、多くの地元住民の方を含む120人の参加者があり、地域の方々に現地を体感していただくことができた。

予算執行は初めての経験であったため、予定より大幅に残す結果となった。その理由として、ミニ講演会場が無料で借りられることになったことが大きい。また、予算の多くを占めていた宿泊費や交通費等の手続き上、実際に執行できる部分が少なくなったことによる。

以上のように、このプロジェクトを採択していただいたため、地域に眠る文化財を今後活かそうという活動に深く参画することができました。ありがとうございました。